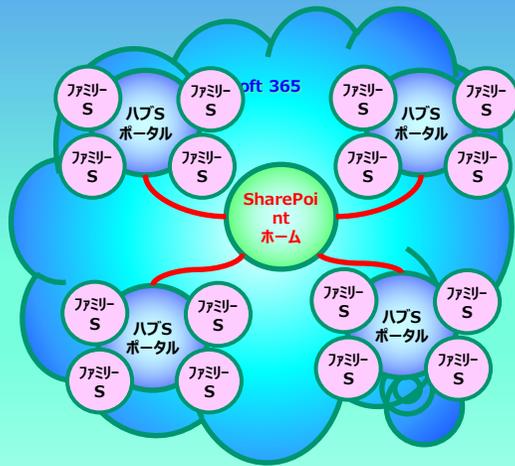


Share Point Onlineを学ぼうっ！シリーズの概要

Microsoft365の「Share Point Online」は、MicroSoft社が提供するクラウドサービスです。

最近話題のPowerシリーズとは？ 活用事例は？ SharePointを学ぼう_15.ハブサイト構成「モダンサイト編」

- 1 .SharePointハブとは (モダンサイト編) - SharePointハブの構造
- 2 .モダンサイトとは (モダンサイト編)
- 3 .ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)
- 4 .SharePoint Online の検索機能について



Teams Connect

その方法とカスタマイズした結果イメージ及び動作は？

- ⇒ SharePointを学ぼう_14.Onlineカスタマイズ編 (51~75)
- ⇒ SharePointを学ぼう_15.Onlineカスタマイズ編 (76~100)

【付録】

- ①最近話題のモダンとクラシックの違い、サイトとUIとは？
- ②2週間に2回ペースでの改版でモダンの関わる不具合？
- ③その他資料

- ⇒ SharePointを学ぼう_16.MS回答1_モダンとクラシックについての問合せと回答
- ⇒ SharePointを学ぼう_17.MS回答2_サブサイト作成エラーの問合せと回答
- ⇒ SharePointを学ぼう_18.BPO事業(フィリピン)(読上版)



はじめに

今迄の「SharePointを学ぼう」シリーズは、「SharePointオンプレミス」ではお馴染みのクラシックUI(ユーザーインタフェース)のチームサイトでの説明の資料で纏めています。

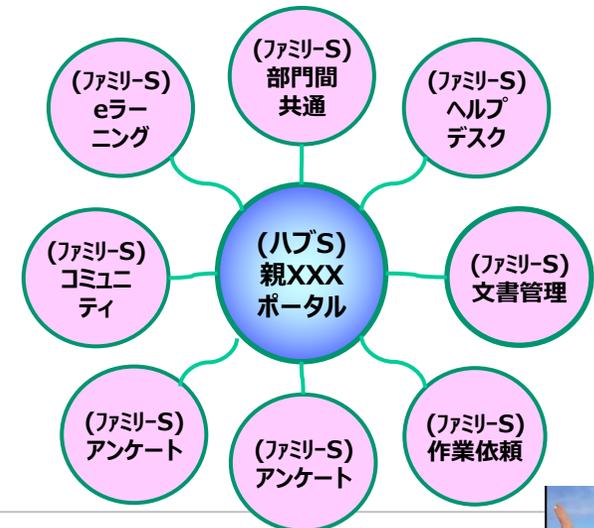
でも最近の「Power Platform」や「Teams」の登場にて、ユーザーインタフェース(UI)もモダンUIのモダンサイトが使われだし、「Teams」のアクセス権限の管理方法でもある「Microsoft365グループ」接続(管理)でのチームサイトやコミュニケーションサイトの抽出手順が追加されています。

従来の「Microsoft365グループ」なしでの抽出メニューは下方に追いやられ、そのメニュークリックで表示されるテンプレートの選択のプルダウンメニューに表示される上段のサイトは、総てモダンUIサイトであり、従来のクラシックUIのチームサイトを作成(抽出)するには、最下段の「その他のテンプレート」のクリックで表示される従来の画面に遷移して作成する必要があります。

何年も前より運用してきた「SharePointオンプレミス」版とコラボレーション運用を前提に、「Microsoft365」(Office365の時代)を活用されている組織の方々は、MMI(マン・マシン・インタフェース)統一の配慮や既にWebパーツ「スクリプトWebパーツなど」を利用して色々な機能を実現されているユーザーは、クラシックUIのチームサイトを作成(抽出)で対応されていらっしゃる処が殆どですが、クラシックUIのチームサイトをモダンUIに変更するマイクロソフト社が提供されている機能も、Webパーツでカスタマイズされたサイトの変換はできないのが現実です。

この事は、モダンUIへのサイト移行作業は、サイトの再作成とデータ移行が必要になるため、そのままでの運用をされているのが殆どなのかと推測します。

しかしながら、「SharePoint ハブ」を利用し、「Power Platform」「Teams」「MSForm」もモダンUIなので、サイトもモダンUIでサブサイトは塩漬けにし作成しない運用のメリットも捨てがたい事は事実なので、「SharePoint ハブ」を利用したモダンUIに着目した視点での資料としています。



【目次】 SharePointを学ぼうっ モダンサイト編

1. SharePointハブとは (モダンサイト編) - SharePointハブの構造

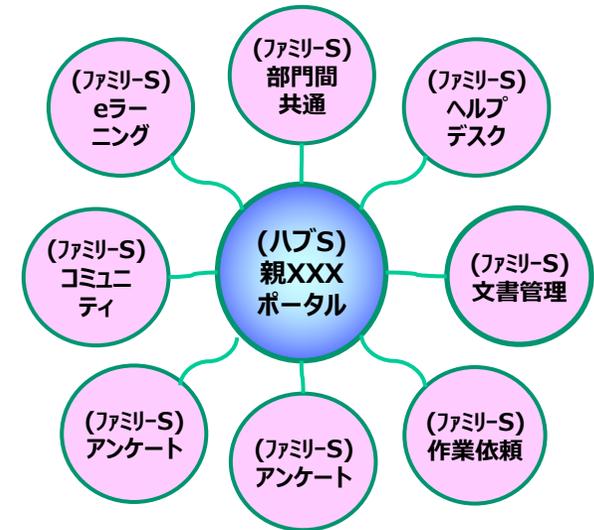
- (1) 「SharePoint ハブ」を利用する優位な点
- (2) 「SharePoint ハブ」を利用するメリット
- (3) 制限値、ハブサイトとファミリーサイト
- (4) Microsoft Teams と SharePoint の関係
- (5) サイト構成を抜本的に見直そう
- (6) SharePoint ホーム
- (7) ハブ構成の例

2. モダンサイトとは (モダンサイト編)

- (1) モダンなエクスペリエンス
- (2) モダンページ について
- (3) モダンページ の特徴や利点と欠点

3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

- (1) サイトコレクションの作成(払出し)の方法 - 提供されているテンプレートでの一般的な作成例
- (2) サイトコレクションの作成(払出し)の方法 - ユーザが作成したテンプレートでの作成例
- (3) ハブの接続設定方法
- (4) サイト
- (5) サイト・テンプレート
- (6) リスト・テンプレート
- (7) サイト列・サイトコンテンツタイプ
- (8) サイト列の追加・設定の方法
- (9) コンテンツタイプの追加・設定の方法
- (10) 用語セット
- (11) ドキュメントセット



4. SharePoint Online の検索機能について

- (1) 検索機能
- (2) 検索機能についての公開情報
- (3) 検索事例紹介



1.SharePointハブとは (モダンサイト編)

1.SharePointハブの構造

SharePointでハブサイト構造にする場合は、ハブサイトに任意のサイトをファミリーサイトとして論理的に接続していきます。このサイトは**チームサイト**でも**コミュニケーションサイト**でも、**クラシックサイト**でも**モダンサイト**でも構いません。とは言っても、ハブナビゲーションを利用できるのはモダン表示になっているサイトであるため、**クラシックサイトでもサイトページやモダンリストやライブラリで構成されていることが望ましい**と言えます。

(1)「SharePoint ハブ」を利用する優位な点

- ・登場している様々なSharePointポータルの新機能群はサブサイトを考慮されていない。
- ・モダンページ用の「ニュースWebパーツ」(サイトフィードの改良版?)もわかりです。
- ・従来のサブサイトを展開していく構成は、サイト運用に合わせた動線に沿って、別のサイトコレクションに移動したいが簡単ではない。

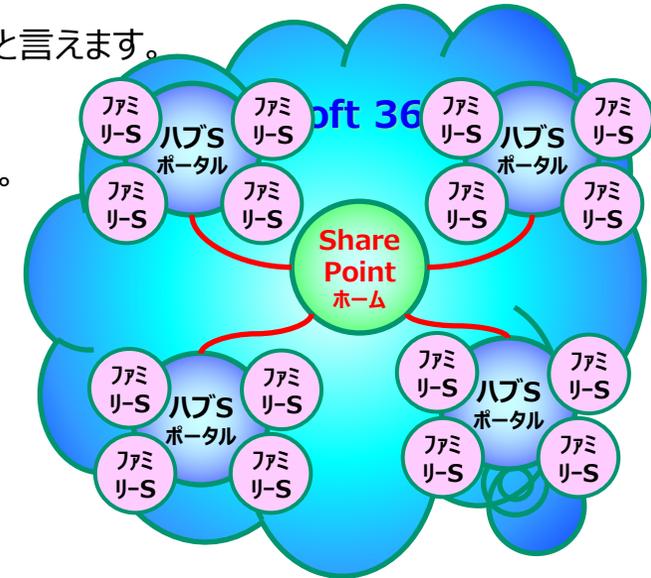
このように、サイトそのものを処理単位の部品と見なし、ハブサイトでサイトを紐づけしファミリーサイトとして**運用の動向(動線)にあったユーザーニーズにたえず対応していく事が SharePoint ハブという新しい概念**を利用するに至るのではないのでしょうか。

(2)「SharePoint ハブ」を利用するメリット

- ・サブサイトという物理的な階層構造を取りやめ、複数のサイトコレクションを論理的にグループ化にできる
- ・グループの階層構造は、ハブサイトとファミリーサイトという2階層構造になる
- ・グループにした時は、ハブナビゲーションと呼ばれる共通ナビゲーションが利用できるようになる
- ・論理構成なので、手軽にサイトの階層構造が変更できる
- ・検索範囲として「ハブ」全体の検索もできる

SharePoint ハブの全体構成は**車輪のハブの如く、放射線状**にファミリーサイトに繋がる。

但し今迄、テナントの運用開始後、サイトの払出しなどの運用管理作業を担当されていた**テナント管理者の作業にハブの接続設定作業が追加される事は留意しておく必要**があります。



1.SharePointハブとは (モダンサイト編)

(3) 制限値、ハブサイトとファミリーサイト

1つのテナント内で指定できる **ハブサイトの数は2,000サイト迄** となっています。

既に2,000以上のサイトコレクションを払出し、運用されている組織(企業グループ)の場合、「**2,000という制限は問題だっ!**」という場合は、最上位のポータルサイトのサイト構成を見直し対応する事が寛容です。

ファミリーサイトには数の制限はありませんが、今迄のサブサイトを別のサイトコレクションで 1 階層構造に分割する検討は必要です。ファミリーサイトは、必ず1つのハブサイト(親サイト)を持ちます。 但し、複数のハブサイトを持つことはできません。

ハブサイト以外のサイトは、最上位の**ハブサイト**(親サイト:ポータル)に接続して**ファミリーサイト**となるか、どのハブサイトにも所属しない**単独サイト**になるかのテナント構成になります。

今迄のサイトコレクション内のサブサイト構成というのは、**物理的な構造**でしたが、柔軟性に欠けるところが少なからずあった訳です。一方でハブサイトでの構造は、サブサイトはやめてサイトコレクションを**論理的に階層化**しようというコンセプトであり、論理的な接続構成なので、各サイトのハブの接続の解除も別のハブへの接続も一瞬です。

設定済のアクセス権限はそのまま温存され、サイトコレクションの**トップレベルサイト同士の接続**なので、URLはハブサイトのファミリーサイトに成る成らない関係なく変わらない処が、**サイトの構造変化に強い**という事で、サイトコレクションという概念はサイトをひと塊として扱うための仕組みです。

しかし、新たな **SharePoint ハブ** の登場によりサイトコレクションを使ったサイトの塊を作る必要がなくなりました。そのため SharePointに関する公式資料でもサイトコレクションという言葉は徐々に使われなくなってきました。

サイトコレクションと言いつつ、サイトはトップレベルサイトのみで1つしかないので、単に「サイト」という表現に変わってきています。現に、SharePoint 管理センターでも実質サイトコレクションの管理なのですが、「サイト」という言葉が使われています。



1.SharePointハブとは (モダンサイト編)

(4) Microsoft Teams と SharePoint の関係

新型コロナの感染拡大により、多くの組織で「Microsoft Teams」の導入が加速度的に進みました。この「Microsoft Teams」ですが、この中には複数のチームを作成できるようになっています。

業務チームによる業務遂行を効率化するために、これを使えるようになっている訳で、各チームには「SharePointのチームサイト」(Office365グループ)で管理されたサイトコレクション) が作成され接続されるようになっており、切り離すことはできません。

ここで作成されるサイトとはサイトコレクションで、チームの数だけサイトコレクションが増えていきます。

今迄、サブサイトを作ることを前提(当たり前)としていた発想を、実際には既にサブサイトを使わない多くのサイトコレクションが存在しています。

業務チームで何か仕事をしようとするとき、いちいちサブサイトを作って権限設定をしてナビゲーションなどを整えて・・・なんてことをしている時間をもったいないし、ある程度 SharePoint の専門知識をもっていなければ、こうした作業ができません。

ですが、ユーザーが思い立ったらすぐに仕事仲間に情報を連携できるようにすることを最優先に考えれば、すでに出来上がっているサイトを使うのが最善策であり、効率良い仕事を可能にします。

このようにサイトコレクションが多く作成されていくので、あとから関連があるサイトをひとつに纏めたいというニーズも出てくるはずで、関連する情報をアクセスしやすくする手段として、チームサイトをハブとして纏める事もできるということです。



1.SharePointハブとは (モダンサイト編)

(5) サイト構成を抜本的に見直そう

オンプレミスの SharePoint やクラシック SharePoint を使っている方は、従来の考え方とは大幅に異なり、サイト管理の発想から大きく転換期を迎えています。

これまでは、サイトコレクションとサブサイトに縛られたサイト設計を最善策としてきましたが、現在はより良い方法として SharePoint ハブの概念が数年前より導入されていますので、このタイミングでサイトの仕分け方の見直しは必要かと思います。

サイトは用途別で細分化し、ハブという論理構成で分割されたサイトもひと塊にしましょう。

そして、前述したとおり SharePoint の検索機能は従来にAI の貢献もあり、比べて飛躍的によくなっています。

可能であれば、「お知らせ」リストはやめて、ニュースを使って情報(配信元のカテゴリはサイト)を共有していくようにします。

総務とか経理とかといった組織単位でサイトを作るという固定観念に縛られないで、業務シナリオに沿ったサイト、例えば、出張に関する情報は「出張サイト」などで構成することを検討してみてください。

このサイトから出張に関するニュースなどは配信し、可能な限り業務内容によってサイトを分けてユーザーの動線も整理します。

サイトを分けると、情報発信する側がわからなくなるのでは? という心配する方もいますが、ファイルサーバーの目的のフォルダーにファイルをしまうのと同じで、出張に関しては「出張」サイトにアクセスしてニュースを書き、福利厚生に関しては福利厚生サイトに遷移してニュースを書きます。

このように**バラバラに発信されるニュース**ですが、検索機能の恩恵により全社ポータルなどに集約表示できるようになっています。ナビゲーションはハブナビゲーションで共通化され、ユーザーが迷うことが圧倒的に少なくなります。

場所に縛られない情報公開ができるようになってきているというのが、クラシックサイトを運営してきた方にとってはとても新しい発想だろうと思います。



1.SharePointハブとは (モダンサイト編)

(6) SharePoint ホーム

ハブサイトは複数作成でき、**各ハブへのアクセスを一か所から行わせる**ことはできるのか? に対する答えの一つが「**SharePoint ホーム**」で、ホームとして指定できるサイトは任意のサイトですが、**テナント内で1つだけ**という制限があります。ここを入りに、複数のハブにアクセスできるようにリンクを持たせることができるようになります。

テナントでは、会社のロゴにアクセスすると SharePoint ホームにアクセスできるように設定が可能で、このサイトに各ハブへのリンクを設定する事で、対象ユーザーの設定を使えば、各リンクを適切なユーザーに対して表示・非表示をコントロールできます。

(7) ハブ構成の例

この「**SharePoint ホーム**」を「**Microsoft Teams**」内にも**組み込んで**いこうというのがこれからの「**Teams**」との**並行利用の方向性**でもあります。

業務は「Teams」を起点にするので、そこからいろんな情報にアクセスさせたい、全社的なアナウンスなどは SharePoint サイトで共有したいなどの要望がある場合、「Teams」内にアプリとして「SharePoint ホーム」を追加する事で、それぞれの情報サイト群にアクセスできるようになるのでお勧めします。

世の中は想像以上にものすごいスピードで変わっていますので、いつの時代も変化に上手に対応していく事、つまり、対応できる構造で整備されたクラウドの活用は「**旬**」と言えます。



2.モダンサイトとは (モダンサイト編)

(1) モダンなエクスペリエンス

マイクロソフトの「[SharePoint クラシックとモダン エクスペリエンス](#)」では、モダンなエクスペリエンスは、説得力があり、柔軟性が高く、モバイルで使いやすいものに設計されており、次のエクスペリエンスが最新の設定になっていると紹介されています。

- ・一覧の SharePoint のスタート ページ Microsoft 365
- ・新しいチーム サイトとコミュニケーション サイトのホーム ページ
- ・サイト コンテンツ
- ・ほとんどのリストとライブラリ
- ・新しいページ
- ・サイトの利用状況
- ・ごみ箱

既存のチームサイトのホーム ページと、Wiki や Web パーツ ページなどの他のサイト ページは、クラシックなエクスペリエンスですが、クラシックからモダンエクスペリエンスへのマッピングは 1 対 1 ではありません。詳細については、SharePoint [モダンエクスペリエンスのガイド](#) を参照してください。

SharePoint のスタート ページ

SharePoint Microsoft 365 の Microsoft 365 のスタート ページ SharePoint サイトを簡単に見つけてアクセスできます。また、頻りにアクセスするサイト、その他の推奨されるニュース、このページからサイトやニュース投稿を作成することもできることを許可している場合、表示される情報とスタート ページは、「SharePointのニュース、サイト、ポータルを検索する」



リストとライブラリ

既定のリストとライブラリの操作環境は、最も一般的なタスクに合った一連の操作を使用してファイルのコピーおよび移動します。ドキュメントを返し、フィルター処理と並べ替えを簡単に行い、列に書式設定を適用し、

クラシック リストとモダン リストとライブラリの違い



左側にクラシック ライブラリ、右側にモダン ライブラリ

従来の機能には、最新のビューでは使用できない機能や異なる機能が一部のカスタマイズが含まれます。詳細については、「リストとライブラリとクラシックエクスペリエンスの違い」を参照してください。

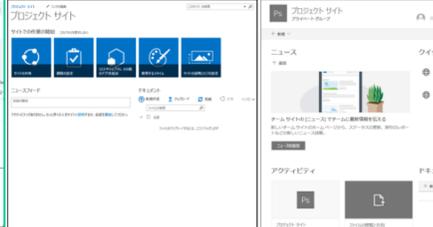
クラシック リストと最新のリストとライブラリを切り替える

リストとライブラリのクラシック ビューとモダン ビューを切り替えるには、ドキュメント ライブラリの既定のエクスペリエンスを新しいビューまたはクラシックビューに切り替えることを参照してください。

チーム サイト

最新のチーム サイトは、これまで以上に共同作業を行っています。これらのユーザーは Microsoft 365 グループ アクセス許可モデルに対してこのオプションを使用します。また、チーム サイトは、ニュース、クイックリンク、サイトアクティビティが事前に設定されています。すべての最新のチーム サイトはモバイル デバイスで見た目に最適化されています。すべての便利な機能は、「SharePoint チーム サイトとは」を参照してください。

クラシック チーム サイトと最新のチーム サイトの違い



左側のクラシック サイト、右側に最新のチーム サイト

クラシック チーム サイトと最新のチーム サイトの主な違いを次に示します。

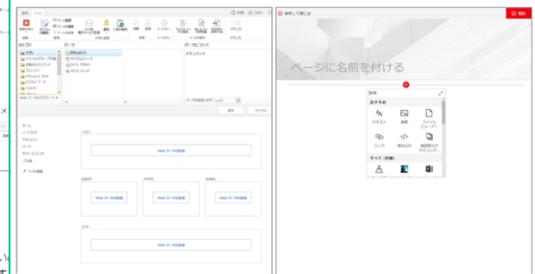
Microsoft 365 グループ クラシック チーム サイトと最新のチーム サイトの最大の違いは、最新のチーム サイトが Microsoft 365 グループ に接続されている点です。グループを使用するユーザーのセットを選択し、それらのユーザーが共有するリソースのコレクションを作成できます。共有 Outlook の受信トレイ、共有予定表、ファイルで共同作業を行うドキュメント ライブラリ、グループにメンバーを追加すると、グループに提供されているリソースの制限が自動的に付与されるため、これらすべてのリソースに手動で権限を割り当てる必要はありません。Microsoft 365 グループ SharePoint グループとは異なる場合、権限は Microsoft 365 の柔軟性が高く、作業が容易になります。ユーザーをグループに追加し、サイトの [サイトの権限] の隣にクリックして、サイトを個人と共有したりすること

ホーム ページ チーム サイト テンプレートからクラシック チーム サイトを作成すると、リンクの Web パーツがホーム ページに自動的に追加され、最新のサイトではニュース、サイト アクティビティ、ドキュメント ライブラリのセクションが表示されます。

ページと Web パーツ

最新のページでは、最新の Web パーツの機能を使用して、応答性の高いページを迅速かつ簡単に作成できます。ページは従来の Web パーツ ページや発行ページに似ていますが、作成が低く、作成しやすくなります。最新のページの詳細については、「サイトにページを追加する」を参照してください。最新のページを作成できない場合は、管理者が無効にしている可能性があります。管理者は、ユーザーが最新のサイトにページを作成する方法の詳細を参照してください。

クラシック ページと最新のページの違い



左側のクラシック Web パーツ ページ、右側の最新のページ

Web パーツ 最新のページでは、最新の Web パーツが使用されます。最新の Web パーツは、使いやすく、速く、見た目が良いデザインです。最新の Web パーツでは、コードを使用する必要はありません。セキュリティ上の理由から、最新の Web パーツでは、JScript のようなコードを挿入できない点に注意してください。また、クラシック Web パーツは最新のページでは使用できないこと、最新の Web パーツはクラシック ページで使用できないことも重要です (デベロッパーが、クラシック ページで使用するよう設計されたカスタム Web パーツを作成しない限り)。また、従来の Web パーツと最新の Web パーツの 1 対 1 のマッピングは含め、同様の目的を持つ Web パーツがあります。すべての最新の Web パーツの詳細については、「SharePoint ページで Web パーツを使用する」を参照してください。一般的に使用される従来の Web パーツと同じ目的を持つ最新の Web パーツを確認するには、「クラシック Web パーツと最新の Web パーツエクスペリエンス」を参照してください。



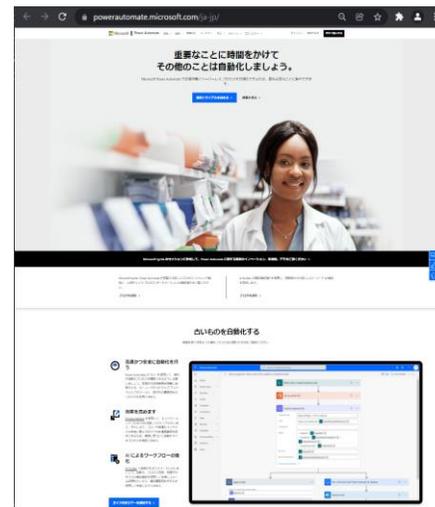
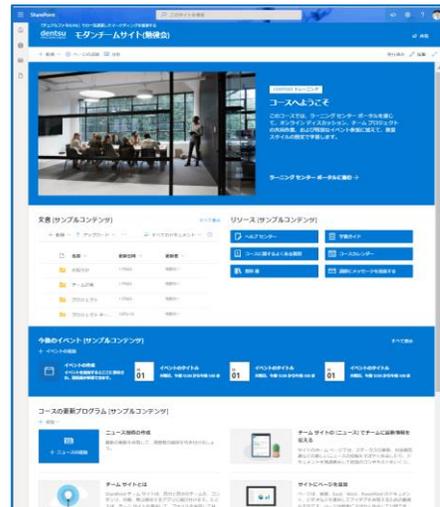
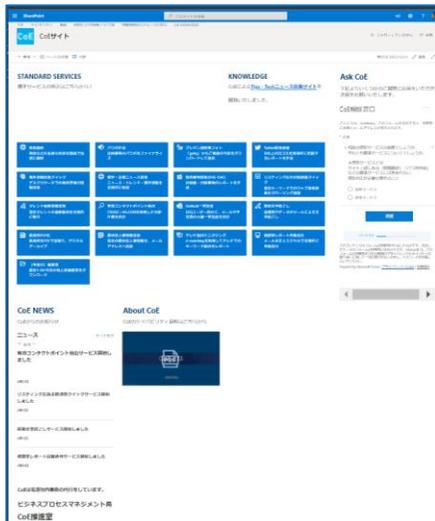
2.モダンサイトとは (モダンサイト編)

(2) モダンページ について

最近の MicroSoft 社は、365テナント契約ユーザーに対して SharePointの モダンサイト への移行を推奨しています。また、新しいキーワードである「モダン」「クラシック」が現れて困惑されている方々もいらっしゃると思いますので、説明させていただきます。

モダンサイトは、サーバーサイド処理が減る事で画面表示が早くなる事をマイクロソフトは掲げています。また、マイクロソフトの推奨に合わせて「**可能な限りモダンでサイト構築**」を推奨しているため、最近の構築対応も **モダンページ**での作業展開をされている企業も多く見受けられるようになっています。

- モダンページを使用し、説得力があり、柔軟性が高い統一したレイアウトにしたい。
- モダンページはクラシックサイトでも作成可能であり、リストやライブラリ単位で モダンUI(モダンページ) ⇔ クラシックUI(WikiPage) の切替設定も可能。
- モダンページを前面に使用したクラシックサイトであれば、サイトテンプレートやリストテンプレートの作成・活用は可能。
- 以前のチームサイト(クラシック)サイトの作成手順は解りにくく、可能な限り使用したくない。
- 以前のアプリの追加手順は解りにくく、可能な限り使用したくない。
- ローカルフォルダをフォルダ構成そのままにドラッグ & ドロップでドキュメントライブラリにアップロード可能。
- プロパティ情報の設定で ステータスや期日や金額による色分けなど Excelライク なことが簡単に出来る。



2.モダンサイトとは (モダンサイト編)

(3) モダンページ の特徴や利点と欠点

モダンページは、モダンサイトの設定で「WikiPage」がアクティブ化されていない時の表示レイアウトのデフォルトになっています。Wikiページと比較し、長所と短所を理解してご活用ください。

●「モダンサイトページ」の特徴や利点

- ・ポータルサイトのモダンサイトページのレイアウト例
- ・リストとライブラリやMSフォームの活用
- ・PowerPlat Form との連携「クラシックUIでも連携している」
- ・PDFやPowerPointを上手く活用したグラフィカルな簡易レイアウトが可能 「機能制限を可能な限り改善する対策」
- ・「SharePoint Framework」で「GitHub」で公開されているコードを使ってモダンUI用の「Webパーツ」の追加が可能

●モダンサイトページ では設定できない事柄

- ・モダンサイトの標準設定ではテンプレートも作成できない
 - ・モダンページには「予定表」「アンケート」「ディスカッション掲示板」「タスク」などは、Wikiページ(クラシックUI)の編集操作のように、簡単にはが期待する配置ができない
 - ・ページ内に張付した クイックリンク「ボタン」 毎にカラー設定ができない
 - ・ページ内に張付した クイックリンク「ボタンや画像」 の高さ設定ができない
 - ・「ニュース」への投稿記事が サイトのページに意味不明な命名で作成されてしまう
 - ・MS提供の「サイトテンプレート(モダンUI)」の予定表の不具合が一向に改修されない
 - ・拡張リッチテキストに画像を張り付けても反映されない場合がある
 - ・モダンUI「モダンページ」と クラシックUI「WikiPage」 の右上歯車が表示される迄の時間を検証したが、クラシックUI の方が表示が速く完了 する
 - ・よく使用している「Webパーツ」がモダンページでは使用できないため、よくあるユーザー要望が対応不可能
- ※その他、標準機能「クラシックUI」で対応されている内容が対応されていない「モダンUI」場合があるので、留意が必要。



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

3. ビジネスシーンでありそうな要望

テナントは準備し、既にあるシステムのデータを移行するにあたり、「SharePoint ハブ」を利用してサイト展開したいというご要望に対応して、以下のようなご質問があるのかと推測します。

- ① ハブサイトは部門ポータル、ファミリーサイトは部署サイトで構成したい
独自のポータル用と用途別用のテンプレートにて、サイトコレクションの作成(払出し)の手順を知りたい
部門ポータルと部署サイトの**ハブの接続設定方法**、設定手順を知りたい
- ② ハブ構成なので、サイトはモダンUIの**チームサイト**と**コミュニケーションサイト**で作成したい
部門ポータルとファミリーサイト構成で構築されるサイト群の**サイトのイメージ例**を知りたい
- ③ 展開を予定しているサイトが多いが各サイトは類似したレイアウトを想定しているため、**テンプレート化して展開**したい
テンプレート化する方法と作成したテンプレートで**サイトコレクションの作成(払出し)**方法を知りたい
- ④ サイトに展開するコンテンツ(リスト・ライブラリ)は、**サイト列・サイトコンテンツタイプ**を使って作成展開したい
理由：サイト内のコンテンツで使用する列は一元管理し、列属性の一括変更、列の並びの管理、グローバル列として参照したい
- ⑤ サイトに展開したコンテンツ(リスト・ライブラリ)で、**用語セット**を使いたい
理由：一般的にはカテゴリーマスタなどを準備し、参照する構成とするが、サイトの**一元管理されたメタ・リソース**として活用したい
- ⑥ 資料を管理するドキュメントライブラリで**ドキュメントセット**を活用したい
理由：会議などで使用する資料は複数あり、1つの纏まりとして資料共通して準備したい

上記の想定されるご質問に沿って、次葉に概要を説明します。



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

(1) サイトコレクションの作成(払出し)の方法 - 提供されているテンプレートでの一般的な作成例

Microsoft365グループ無しのチームサイト(モダンUI)の標準提供テンプレートを使用した作成手順は、以下の通りです。
※この操作は、SharePoint管理センターでの操作のため、テナント管理者の実施手順です。

【作業手順の流れ】

- ①～④ : 管理センターへ移動
- ⑤～⑦ : サイトを作成(払出し)
- ⑧～⑩ : サイト和名の変更

サイト名	URL	Teams	チャネルサイト
All Company	https://site/AllCompany	-	-
MS0_ポータル(HubS)	https://site/MS0	-	-
MS1_部門間共通(TeamS)	https://site/MS1	-	-
MS2_文書管理(TeamS)	https://site/MS2	-	-
MS3_作業依頼(TeamS)	https://site/MS3	-	-
MS4_コミュニケーション(TeamS)	https://site/MS4	-	-
MS5_メールセンター(TeamS)	https://site/MS5	-	-
MS6_アンケート(TeamS)	https://site/MS6	-	-
MS7_ヘルプデスク(TeamS)	https://site/MS7	-	-
MS8_共有ファイル(TeamS)	https://site/MS8	-	-
MS9_共有ファイル(TeamS)	https://site/MS9	-	-
MSH	https://site/MSH	-	-



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

(2) サイトコレクションの作成(抽出)の方法 - ユーザが作成したテンプレートでの作成例

今迄、独自の「サイトテンプレート」で「サブサイト」を作成する場合は、既に[ソリューション]に登録されている「テンプレート」を選択するという手順でしたが、サイトコレクションを作成(抽出)する時には「サイトテンプレート」を選択できないため、この手順で「トップレベル サイト」に独自の「サイトテンプレート」を展開できません。

その対処として「サイトコレクション」を作成する場合は、空のトップレベル サイトを作成し、後でテンプレートを適用するという手順になります。 ※この操作は、SharePoint管理センターでの操作のため、テナント管理者の実施手順です。

● サイト コレクションの作成 - ①～④

①～④：管理センターへ移動

The screenshots illustrate the navigation path from the Office interface to the SharePoint Admin Center. The first screenshot shows the Office app launcher with the '管理' (Admin) icon highlighted. The second screenshot shows the Microsoft 365 app list with '管理' highlighted. The third screenshot shows the Microsoft 365 navigation pane with 'SharePoint' highlighted. The fourth screenshot shows the '従来の SharePoint 管理センター' (Legacy SharePoint Admin Center) page with 'サイトコレクション' (Site Collections) highlighted.



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

ユーザが作成したテンプレートでの作成例 - 前ページからの続き

● サイト コレクションの作成 - ⑤～⑨

- ⑤ : サイトを作成(払出し)で、SharePoint管理センターの一覧画面の上左の [サイト コレクションの作成] をクリック
- ⑥ : 「その他のオプション」をクリック
- ⑦ : 「その他のテンプレートをクリック」
- ⑧ : テンプレートの選択で、[ユーザー設定]タブを開き、[<テンプレートを後で選択...>] を選択します。
- ⑨ サイト コレクションの作成で必要事項を設定し、画面下部の[OK]をクリックします。

The image displays three sequential screenshots from the SharePoint Management Center interface, illustrating the steps to create a site collection:

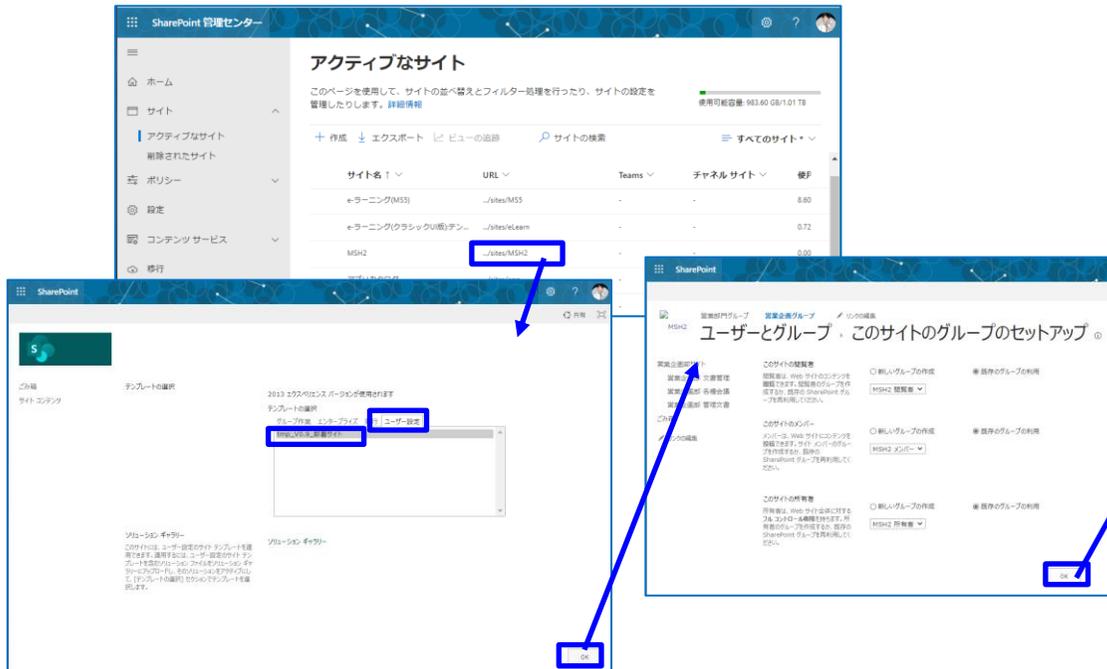
- Step 5:** The 'Active Sites' page shows the 'Create' button highlighted with a blue box and a circled 5.
- Step 6:** The 'Other Options' dialog is shown, with the 'Other Templates' option highlighted by a blue box and a circled 6.
- Step 7:** The 'Other Templates' dialog is shown, with the 'Other Templates' option highlighted by a blue box and a circled 7.
- Step 8:** The 'Site Collection Creation' form is shown, with the 'User Settings' tab selected and highlighted by a blue box and a circled 8.
- Step 9:** The 'Site Collection Creation' form is shown, with the 'OK' button highlighted by a blue box and a circled 9.



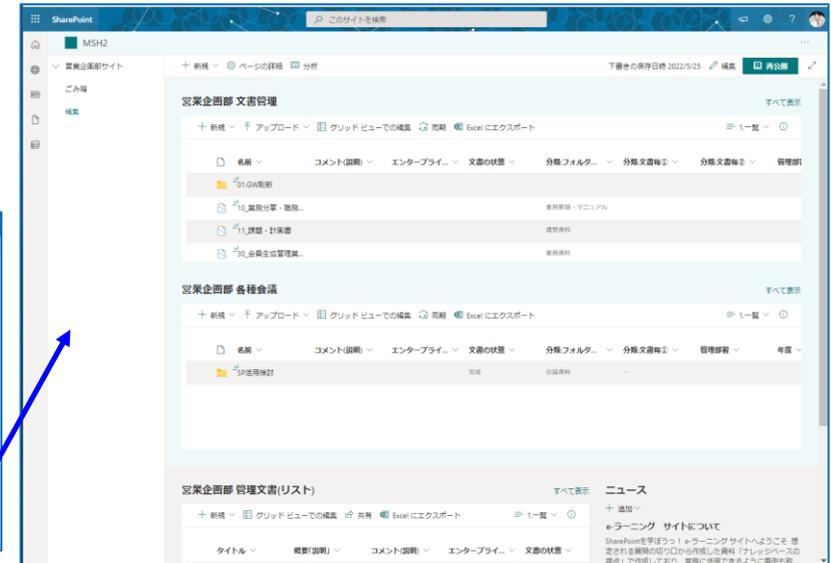
3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

ユーザが作成したテンプレートでの作成例 - 前ページからの続き

- 事前にアップロードされたサイト テンプレートを適用 - ⑩～⑪
- ⑩ サイト コレクションの作成完了後、一覧のURLをクリックします
- ⑪ テンプレートの選択から[ユーザー設定]タブを開き、事前にアップロードしたテンプレートを選択し、[OK]をクリックすると、サイトが作成されます。



● 展開されたサイトの修正は必要



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

ユーザが作成したテンプレートでの作成例 - 前ページからの続き

★事前準備と必要なサイトテンプレートのアップロード

- ① サイト コレクションの作成完了後、一覧のURLをクリックします
- ② 作成したサイト コレクションを開き、画面下方の[ソリューション ガallery]をクリックします。
- ③ [ソリューションのアップロード]をクリックし、[参照]ボタンをクリックします。
- ④ ファイルを選択し、[OK]をクリックし、画面のリボンメニューの[アクティブ化]をクリックします。

The screenshots show the following steps:

- SharePoint Admin Center:** The 'Active Sites' page shows a table with columns for 'Site Name' and 'URL'. A site named 'MSH2' is highlighted.
- Site Page:** The 'Solutions' ribbon tab is active, showing options like 'Add Solution' and 'Activate Solution'.
- Add Solution Dialog:** A dialog box titled 'ソリューションの追加' (Add Solution) with a file selection field containing 'tmp_V0.9_部署サイト.wsp'.
- Add Solution Dialog (Details):** A dialog box showing details for the solution, including '名前' (Name: tmp_V0.9_部署サイト.wsp) and 'ソリューション ID' (Solution ID: {8AA4B90F-7287-4673-961C-F68298C797DD}).
- File Explorer:** A file explorer window showing the file 'tmp_V0.9_部署サイト.wsp' selected in the 'C:\Users\user\Desktop' folder.
- Solutions Gallery:** The 'Solutions' gallery on the site page shows the newly added solution 'tmp_V0.9_部署サイト.wsp' with a status of 'アクティブ' (Active).



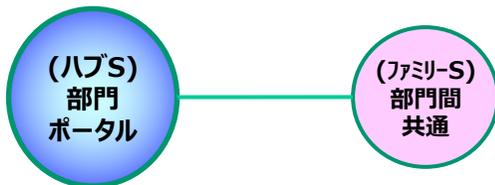
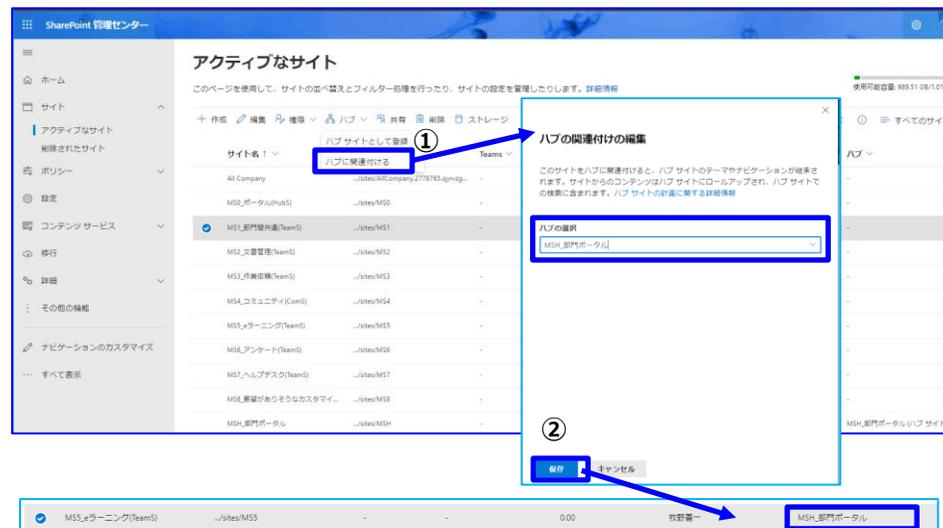
3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

(3) ハブの接続設定方法

ハブサイトは部門ポータル、ファミリーサイトは部署サイトで構成を想定している場合の、親となるハブサイト「部門ポータル」とファミリーサイトとなる「部署サイト」や「用途別サイト」のハブの接続設定手順を、以下に説明します。

● 親となるハブサイト「部門ポータル」の設定手順

● ファミリーサイトとなる「用途別サイト」の接続設定手順



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

● ハブサイト 多段階構成について

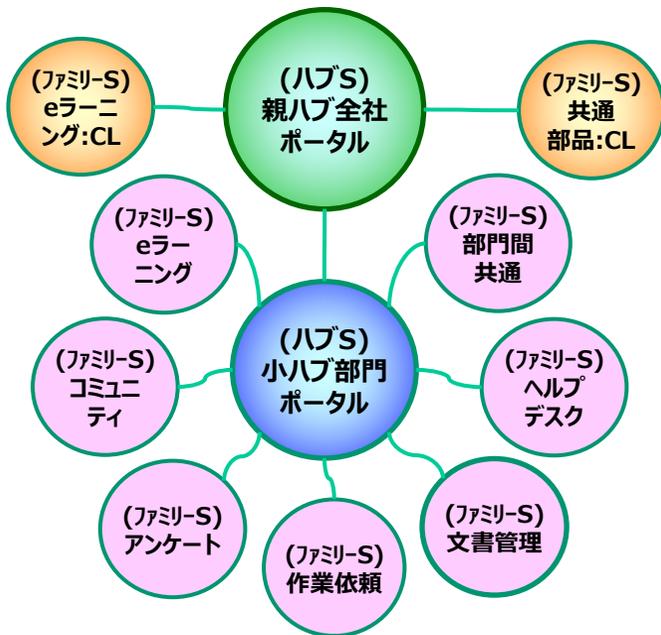
検索エクスペリエンスを接続SharePointハブ サイトを別のハブに関連付ける設定については、以下を参照。

⇒ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/hub-to-hub-association>

ハブとハブサイトの関連付けは、接続を作成するために互いにロールアップするハブのネットワークを作成します。ハブが互いに関連付けられている場合、コンテンツを検索し、最大 3 つのレベルの関連付けをハブに表示できます。

ハブ サイトを他のハブに関連付けられる方法と、これらのサイトで検索するユーザーを検索するサイト コンテンツを示しています。

ファミリーサイト ⇔ 親ハブ ⇔ 小ハブ ⇔ ファミリサイトの接続設定例



アクティブなサイト

このページを使用して、サイトの並べ替えとフィルター処理を行ったり、サイトの設定を管理したりします。 [詳細情報](#)

+ 作成 ↓ エクスポート ビューの追跡

🔍 サイトの検索

サイト名	URL	Teams	チャネ...	使用済...	第一管...	ハブ	テンプレート
共通部品	.../sites/com	-	-	27.53	牧野 一	全社ポータル	チーム サイト (クラシック表示)
e-ラーニング(クラシックUI版)テン...	.../sites/eLearn	-	-	0.72	牧野 一	全社ポータル	チーム サイト (クラシック表示)
部署ポータル	.../sites/MS0	-	-	0.03	牧野 一	部門ポータル(HS)	チーム サイト (Microsoft 365 グループなし)
部門間共通(MS1)	.../sites/MS1	-	-	0.00	牧野 一	部門ポータル(HS)	チーム サイト (Microsoft 365 グループなし)
文書管理(MS2)	.../sites/MS2	-	-	0.00	牧野 一	部門ポータル(HS)	チーム サイト (Microsoft 365 グループなし)
作業依頼(MS3)	.../sites/MS3	-	-	0.00	牧野 一	部門ポータル(HS)	チーム サイト (Microsoft 365 グループなし)
コミュニティ (MS4Com)	.../sites/MS4	-	-	0.00	牧野 一	部門ポータル(HS)	コミュニケーション サイト
e-ラーニング(MS5)	.../sites/MS5	-	-	8.60	牧野 一	部門ポータル(HS)	チーム サイト (Microsoft 365 グループなし)
アンケート(MS6)	.../sites/MS6	-	-	0.00	牧野 一	部門ポータル(HS)	チーム サイト (Microsoft 365 グループなし)
ヘルプデスク(MS7)	.../sites/MS7	-	-	0.00	牧野 一	部門ポータル(HS)	チーム サイト (Microsoft 365 グループなし)
要望がありそうなカスタマイズ(MS8)	.../sites/MS8	-	-	0.00	牧野 一	部門ポータル(HS)	チーム サイト (Microsoft 365 グループなし)
部門ポータル(HS)	.../sites/MSH	-	-	0.00	牧野 一	部門ポータル(HS) (ハブ サイト)	チーム サイト (Microsoft 365 グループなし)
MSH2	.../sites/MSH2	-	-	0.00	牧野 一	-	-
全社ポータル	.../sites/MSHTOP	-	-	0.00	牧野 一	全社ポータル (ハブ サイト)	チーム サイト (Microsoft 365 グループなし)

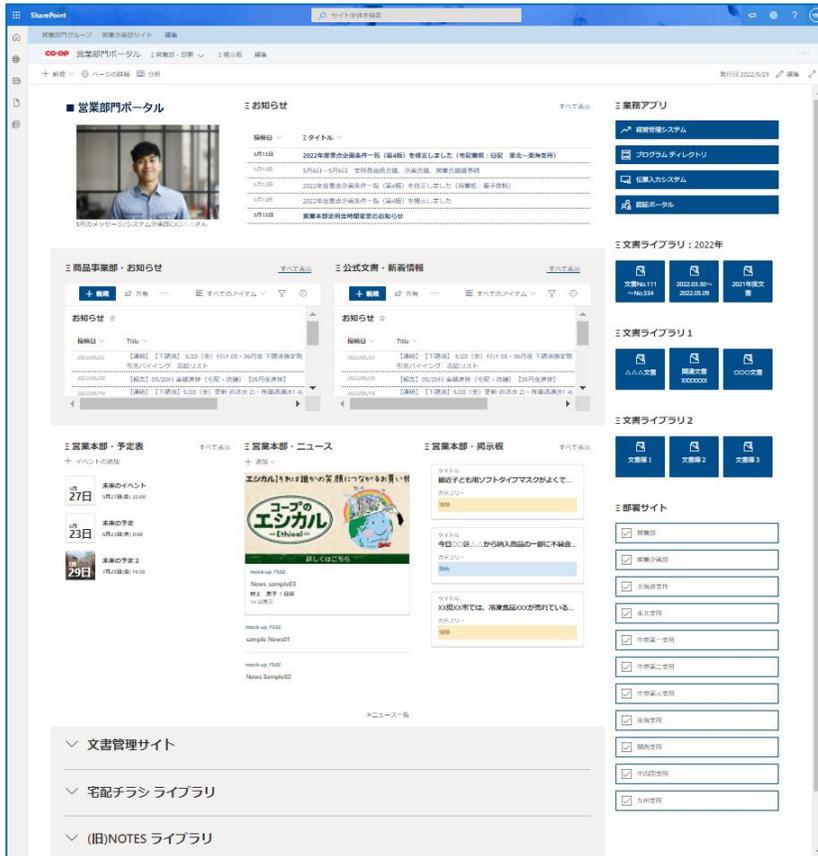


3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

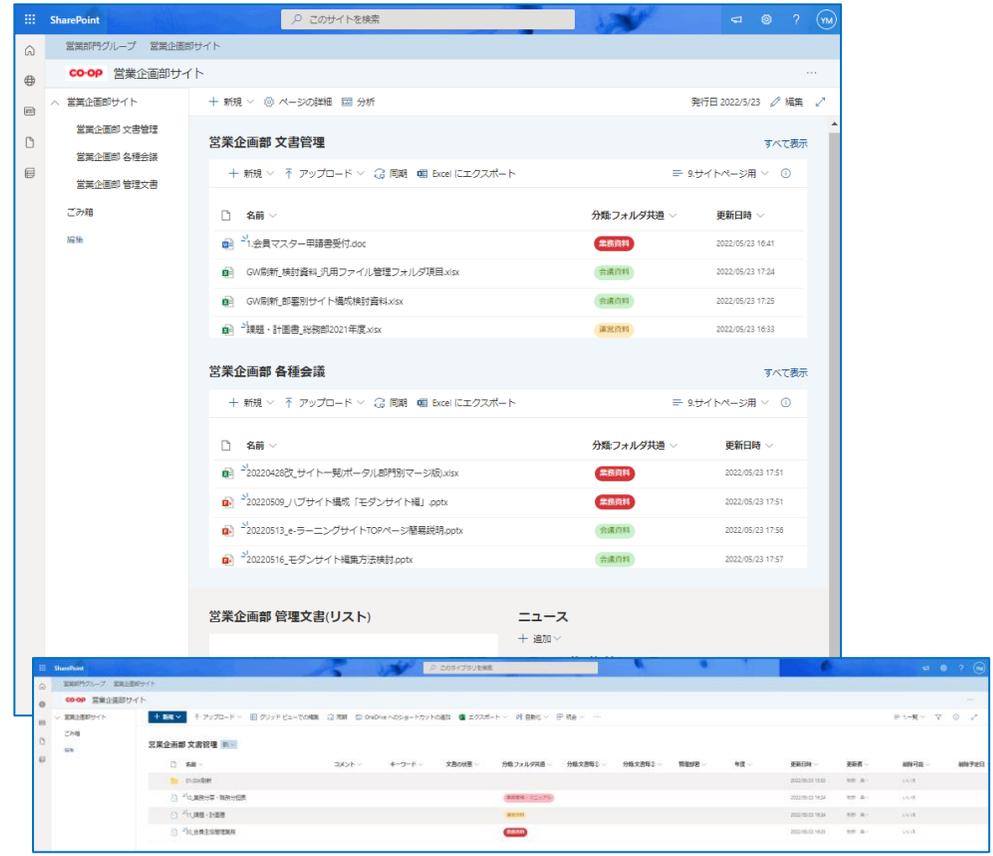
(4) サイト

ハブ構成のサイトはモダンUIのチームサイトとコミュニケーションサイトで作成しますが、親となるハブサイト「部門ポータル」とファミリーサイトとなる「部署サイト」や「用途別サイト」のサイト画面のイメージ例を、以下に説明します。

● 部門ポータル例 「ハブサイト:親サイト」



● 部署や用途別サイト例 「ファミリーサイト:子サイト」



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

(5) サイト・テンプレート

展開を予定しているサイトが多いが各サイトは類似したレイアウトを想定しているため、テンプレート化して展開したいと質問について、テンプレート化する方法と作成したテンプレートでサイトコレクションの作成(払出し)方法を以下の説明します。

ハブサイトを活用した運用なので、サイトテンプレートは、サイトの払出し(サイトコレクションの作成)時に、テナント管理者の方が作成したテンプレートが選択できるよう、事前にカスタマイズしたサイトテンプレートの登録が必要です。

SharePoint標準で提供される汎用テンプレートは、チームサイトやコミュニケーションサイトなど数種類しかありません。最近よく耳にする「ポータルサイト」などは、ユーザーがレイアウトして、サイトテンプレートとして保存し活用するのが一般的です。

※モダンサイトは、標準設定では、テンプレート機能は使用できないため、PowerShellにて設定変更が必要です。
詳しくは、「SharePointを学ぼう_17.MS回答1_モダンとクラシックについての問合せと回答.pdf」を参照してください。

●ポータルサイトの作成 – サイトへコンテンツ(リストやライブラリ)の展開とサイトページの編集

※ 操作手順は、別紙資料を参照してください

●テンプレート用にレイアウトしたサイトのテンプレートとして保存、払出用テンプレートの登録

※ 操作手順は、別紙資料を参照してください

●払出用に登録したテンプレートでサイトコレクションの作成(払出し)

※ 操作手順は、別紙資料を参照してください



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

(6) リスト・テンプレート

SharePoint標準で提供される汎用テンプレートは、基本列と1つのビュー構成でしかないので、実業務(用途)に合わせたリストやライブラリをユーザーがレイアウトし、且つ、活用が想定されるビューも追加するのが一般的です。

作成したリストやライブラリは、他のサイトでも類似したレイアウトのコンテンツを使う事から、再利用が可能なように、リストテンプレートとして保存し活用するのが一般的です。

※モダンサイトは、標準設定では、テンプレート機能は使用できないため、PowerShellにて設定変更が必要です。
詳しくは、「SharePointを学ぼう_17.MS回答1_モダンとクラシックについての問合せと回答.pdf」を参照してください。

● カスタムリスト・ライブラリの編集 – 用途に合わせた列の追加・編集とビューの編集・追加

※ 操作手順は、別紙資料を参照してください

● テンプレート用に編集したカスタムリスト・ライブラリのテンプレートとして保存

※ 操作手順は、別紙資料を参照してください

● 別サイトに作成したテンプレートの登録

※ 操作手順は、別紙資料を参照してください



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

(7) サイト列・サイトコンテンツタイプ

サイト内のコンテンツで使用する列は一元管理し、列属性の一括変更、列の追加・削除や並びの変更、サイト内で参照可能なグローバル列として管理したいため、サイトに展開するコンテンツ(リスト・ライブラリ)は、**サイト列・サイトコンテンツタイプ**を使って作成展開したいので、関連イメージと作成方法、用途や事例はの質問に対する回答を以下に記します。

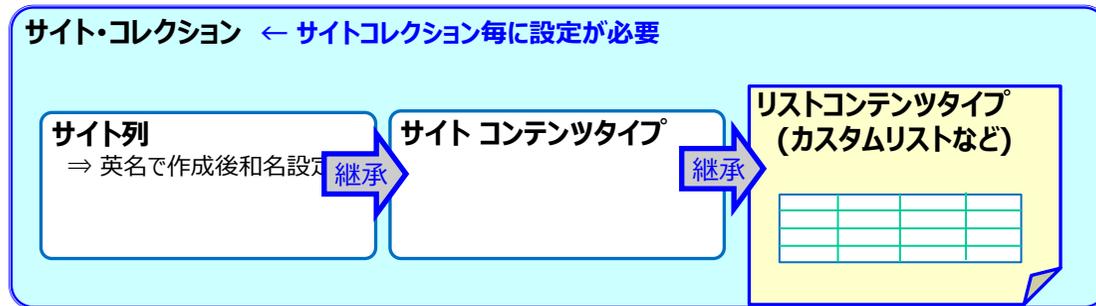
【用途】

- ・複数展開するリストなどで、列(属性も含む)、列の並びを一元管理したい時に活用
- ・1つのカスタムリストで用途に応じて、入力フォームなどの列を変えたい場合は、複数のコンテンツタイプを紐づけ設定。但し、ドキュメントライブラリで複数のコンテンツを使用する場合は、ドラッグ&ドロップでのドキュメントの登録は注意が必要。

【事例】

- ・1つのカスタムリストで、会議開催案内、議事録など用途に合わせた列の異なるフォームを使いたい場合
- ・1つのカスタムリストで、投稿とその投稿に対する返信フォームで入力列も変えたい場合
- ・投稿する方の所属部門などによって、フォームの表示列などを変えたい場合など色々と活用が可能です。

【関連イメージ】



サイトの設定、サイト列

作成	種類	グループ公開範囲	ソース
Site列	列	ソース	
._GET	列		
._URL	列		
1.承認(上掲)	ユーザーグループ	共有製品	
2.承認(候補責任者)	ユーザーグループ	共有製品	
Group	列	共有製品	
Info	列	共有製品	
LNNA(参照URL)	ハイパーリンクまたは画像	共有製品	
LinkPath	1行テキスト	共有製品	
LinkURL	1行テキスト	共有製品	
Status	列	共有製品	
サブタイトル	1行テキスト	共有製品	
サブタイトル2	1行テキスト	共有製品	
サブタイトル3	1行テキスト	共有製品	
メールアドレス	1行テキスト	共有製品	
ユーザー	ユーザーグループ	共有製品	
一覧	ユーザーグループ	共有製品	
連絡先(送信)	ユーザーグループ	共有製品	
連絡先(受信)	1行テキスト	共有製品	
所属部署	1行テキスト	共有製品	
承認済みのリンク	承認済みのリンク	共有製品	
承認済みのURL	承認済みのURL	共有製品	
番号	列	共有製品	
文書種別	選択	共有製品	
承認FormID	1行テキスト	共有製品	
承認URL	承認済みのURL	共有製品	

サイト コンテンツ タイプ、サイト コンテンツ タイプ

サイト コンテンツ タイプの情報

名前: 選択
 種類: アイテム
 数: 1
 グループ: .GET

設定

- ・ 名前、説明、およびグループ
- ・ 詳細設定
- ・ ツールバー設定
- ・ このサイト コンテンツ タイプを削除
- ・ 情報管理のURLを設定

列

名前	種類	初期値	ソース
サブタイトル	1行テキスト		
サブタイトル2	1行テキスト		
サブタイトル3	1行テキスト		
サブタイトル	1行テキスト		
タイトル	選択		アイテム
連絡先(送信)	承認済みのURL		
LNNA(参照URL)	ハイパーリンクまたは画像		
文書種別	選択		

※ サイト列・サイトコンテンツタイプ・リストコンテンツタイプのより詳しい内容につきましては、「豆知識②サイト列・サイトコンテンツタイプ.pdf」を参照してください。



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

● サイト列⇒サイトコンテンツタイプ⇒リストコンテンツタイプ 関連(継承)イメージ

サイト内で使用する列は、「サイト列」を継承した「サイトコンテンツタイプ」、「サイトコンテンツタイプ」を継承した「リストコンテンツタイプ」、リストコンテンツで列定義されたコンテンツ(カスタムリスト、ドキュメントライブラリ)が展開しサイト構成しています。

■ サイト列 例

サイト列和名	サイト列英名	種類
CP基本		
名前	FileRef	ファイル
タイトル	Title	1行テキスト
概要「説明」	ConText	複数行テキスト(3行)
コメント(説明)	ExDescription	複数行テキスト(2行)
文書の状態	DocStatus	選択肢
部外秘文書		選択肢
年度		選択肢
文書の保存年限		選択肢
削除可能	CanBeDeleted	選択肢
削除予定日	SchDeleteDate	日付けと時刻
並び順		数値
CP部署		
分類:フォルダ共通	CategoryS1	選択肢
分類:文書毎①	CategoryS2	選択肢
分類:文書毎②	CategoryS3	選択肢
分類階層	CategoryS0	集計列
区分1		はい/いいえ
区分2		はい/いいえ
管理部署		1行テキスト
管理担当者		1行テキスト

■ サイトコンテンツタイプ 例

名前	状態	ソース
名前	必須	ドキュメント
概要「説明」	任意	
コメント(説明)	任意	
エンタープライズ キーワード	任意	
分類:フォルダ共通	任意	
分類:文書毎①	任意	
分類:文書毎②	任意	
削除可能	任意	
削除予定日	任意	
管理部署	任意	
年度	任意	
文書の状態	任意	
タイトル	隠しファイル	

■ リストコンテンツタイプ 例

名前	状態	ソース
名前	必須	ドキュメント
概要「説明」	任意	
コメント(説明)	任意	
エンタープライズ キーワード	任意	
分類:フォルダ共通	任意	
分類:文書毎①	任意	
分類:文書毎②	任意	
削除可能	任意	
削除予定日	任意	
管理部署	任意	
年度	任意	
文書の状態	任意	
タイトル	隠しファイル	

※汎用ドキュメント例 列の状況、並び順を管理

列 (クリックして編集)	種類	使用箇所
キーワード	管理されたメタデータ	汎用ドキュメント, 汎用フォルダ, 汎用ドキュメント セット
コメント	複数行テキスト	汎用ドキュメント, 汎用フォルダ, 汎用ドキュメント セット
タイトル	1行テキスト	汎用ドキュメント, 汎用フォルダ, 汎用ドキュメント セット
管理部署	1行テキスト	汎用ドキュメント, 汎用フォルダ, 汎用ドキュメント セット
更新日時	日付と時刻	汎用ドキュメント
削除可能	選択肢	汎用ドキュメント, 汎用フォルダ, 汎用ドキュメント セット
削除予定日	日付と時刻	汎用ドキュメント, 汎用フォルダ, 汎用ドキュメント セット
説明	複数行テキスト	汎用ドキュメント セット
登録日時	日付と時刻	汎用ドキュメント
年度	1行テキスト	汎用ドキュメント, 汎用フォルダ, 汎用ドキュメント セット
分類:フォルダ共通	選択肢	汎用ドキュメント, 汎用フォルダ, 汎用ドキュメント セット
分類:文書毎①	選択肢	汎用ドキュメント, 汎用フォルダ, 汎用ドキュメント セット
分類:文書毎②	選択肢	汎用ドキュメント, 汎用フォルダ, 汎用ドキュメント セット
文書の状態	選択肢	汎用ドキュメント, 汎用フォルダ, 汎用ドキュメント セット
登録者	1行テキスト	汎用ドキュメント
更新者	1行テキスト	汎用ドキュメント
チェックアウト先	1行テキスト	汎用ドキュメント

コンテンツタイプ	新規ボタンに表示	既定のコンテンツタイプ
汎用ドキュメント	✓	✓
汎用フォルダ	✓	
汎用ドキュメント セット	✓	



和名を変更した場合は、リストコンテンツタイプで管理される

※「サイト列」で内部名、和名、列属性を管理



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

● サイト列、サイトコンテンツタイプの使用例

サイト列、サイトコンテンツタイプを参照したカスタムリストで使用例は、以下の通りです。

コンテンツタイプ

このリストは、複数のコンテンツタイプを有効にするように構成されています。コンテンツタイプを使用して、アイテムについて表示する情報、またはコンテンツタイプを使用できます。

コンテンツタイプ 新規ボタンに表示

掲示

■ 既存のサイトコンテンツタイプから追加

■ 新規ボタンの順序と既定のコンテンツタイプの変更

列

列には、リストにある各アイテムについての情報が保存されます。このリストでは複数のコンテンツタイプが有効なため、アイテムのコンテンツタイプによって、現在、このリストでは次のコンテンツタイプを使用できます：

列 (クリックして編集)	種類	使用箇所
LINK(参照URL)	ハイパーリンクまたは画像	掲示
Title	1 行テキスト	掲示
カテゴリ1	1 行テキスト	掲示
カテゴリ2	1 行テキスト	掲示
カテゴリ3	1 行テキスト	掲示
カテゴリ階層	集計値 (他の列を基にした計算結果)	掲示
概要「説明」	複数行テキスト	掲示
更新日時	日付と時刻	
登録日時	日付と時刻	
文書種別	選択肢	掲示
登録者	ユーザーまたはグループ	
更新者	ユーザーまたはグループ	



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

(8) サイト列の追加・設定の方法

サイトコレクション内のサイト列の追加・設定手順は、以下の通りです。

① サイト情報

② すべてのサイト設定を表示

③ サイト列

④ 追加

⑤ OK

⑥ OK

繰り返し

サイト列名は、次頁のサイト列一覧例を参照してください



● サイト列一覧例

サイトのコンテンツの列で親子関係がない単独列は選択肢列を含め、総てサイト列で管理します。

列名	Name StaticName	FieldType	種類	属性	備考	お知らせ	予定表	掲示板
カテゴリ1	Category1	1行テキスト	選択肢	ドロップダウン				
カテゴリ2	Category2	1行テキスト	選択肢	ドロップダウン				
カテゴリ3	Category3	1行テキスト	選択肢	ドロップダウン				
文書種別	DockKind	ドロップダウン	選択肢	ドロップダウン				
承認有無	Approval_YN	ラジオボタン	選択肢					
概要「説明」	ConText	Text	複数行テキスト	拡張リッチ:3行				
概要	Overview	Text	複数行テキスト	拡張リッチ2行				
承認依頼コメント	AppReqComment	Text	複数行テキスト	拡張リッチ2行				
ユーザー	LoginUser	User	ユーザーまたはグループ					
1.承認(上長)	Approval1	User	ユーザーまたはグループ					
2.承認(最終責任者)	Approval2	User	ユーザーまたはグループ					
所属部署	Department1	Text	1行テキスト					
メールアドレス	mail	Text	1行テキスト					
格納パス	MDEFIdExFolderPath	Text	1行テキスト					
LINK(参照URL)	LinkUrl	URL	ハイパーリンクまたは画像					
親no	Pno	Number	数値(小数点以下桁数0)	隠し				
Gno	Gno	Number	数値(小数点以下桁数0)	隠し				
Ino	Ino	Number	数値(小数点以下桁数0)	隠し				
Status	Status	Number	数値(小数点以下桁数0)	隠し				
ListPath	ListPath	Text	1行テキスト	隠し	←コンテンツの相対パス			
List和名	ListJname	Text	1行テキスト	隠し				
返信FormID	RepFormID	Text	1行テキスト	隠し	←返信FormのコンテンツID			
投/返	PostRet	Text	複数行テキスト	拡張リッチ:1行				
返信投稿	RepPost	Text	複数行テキスト	拡張リッチ:1行				
一覧	List2	Text	複数行テキスト	拡張リッチ:1行				
カテゴリ階層	Category0	Calculated	集計値	-	=[Category1]&"・"&[Category2]&"・"&[Category3]			



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

(9) サイト・コンテンツタイプの追加・設定の方法

サイトコレクション内のサイト・コンテンツタイプ追加・設定手順は、以下の通りです。

1. サイト情報タブを選択

2. すべてのサイト設定を表示

3. サイトコンテンツタイプを選択

4. コンテンツタイプの作成

5. コンテンツタイプの作成

6. コンテンツタイプの作成

7. サイト内の既存の列から追加

8. コンテンツタイプの作成

サイトコンテンツ名は、次頁のサイトコンテンツ列を参照してください



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

● サイト・コンテンツタイプ例

揭示	名前	種類	状態	ソース
リストコンテンツタイプ 親:アイテム	カテゴリ1	1行テキスト	任意	
	カテゴリ2	1行テキスト	任意	
	カテゴリ3	1行テキスト	任意	
	カテゴリ階層	集計値	任意	
	タイトル	1行テキスト	必須	アイテム
	概要「説明」	複数行テキスト	任意	
	LINK(参照URL)	ハイパーリンクまたは画像	任意	
	文書種別	選択肢	隠しファイル	

投稿G/ 返信G	名前	種類	状態	ソース
リストコンテンツタイプ 親:アイテム	ユーザー	ユーザーまたはグループ	任意	
	所属部署	1行テキスト	任意	
	氏名	1行テキスト	任意	
	メールアドレス	1行テキスト	任意	
	カテゴリ1	1行テキスト	任意	
	カテゴリ2	1行テキスト	任意	
	カテゴリ3	1行テキスト	任意	
	カテゴリ階層	集計値	任意	
	タイトル	1行テキスト	必須	アイテム
	概要「説明」	複数行テキスト	任意	
	LINK(参照URL)	ハイパーリンクまたは画像	任意	
	親no	数値	任意	
	Gno	数値	任意	
	Ino	数値	任意	
	ListPath	1行テキスト	任意	
	List和名	1行テキスト	任意	
	一覧	集計値	任意	
	返信FormID	1行テキスト	任意	
	投/返	複数行テキスト	任意	
	返信投稿	複数行テキスト	任意	
文書種別	複数行テキスト	隠しファイル		

サイトのコンテンツタイプは、サイト列の参照で定義します。

投稿WF/返信WF	名前	種類	状態	ソース
リストコンテンツタイプ 親:アイテム	ユーザー	ユーザーまたはグループ	任意	
	所属部署	1行テキスト	任意	
	氏名	1行テキスト	任意	
	メールアドレス	1行テキスト	任意	
	カテゴリ1	1行テキスト	任意	
	カテゴリ2	1行テキスト	任意	
	カテゴリ3	1行テキスト	任意	
	カテゴリ階層	集計値	任意	
	タイトル	1行テキスト	必須	アイテム
	概要「説明」	複数行テキスト	任意	
	LINK(参照URL)	ハイパーリンクまたは画像	任意	
	承認有無	選択肢	任意	
	1.承認(上長)	ユーザーまたはグループ	任意	
	2.承認(最終責任者)	ユーザーまたはグループ	任意	
	承認依頼コメント	複数行テキスト	任意	
	親no	数値	任意	
	Gno	数値	任意	
	Ino	数値	任意	
	ListPath	1行テキスト	任意	
	List和名	1行テキスト	任意	
	一覧	集計値	任意	
	返信FormID	1行テキスト	任意	
	投/返	複数行テキスト	任意	
返信投稿	複数行テキスト	任意		
文書種別	複数行テキスト	任意		
Status	数値	任意		



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

(10)用語セット(用語ストア)の管理ツール

カテゴリーなど分類のキーワードは、一般的にはマスタなどを準備し、そのマスターを参照する構成にしますが、**サイトの一元管理されたメタリソースとして登録し、サイトに展開したコンテンツサイト(リスト・ライブラリ)など複数個所で使用したいため、用語セット(用語ストア)を使いたいという要望に対して、その設定方法を以下に説明します。**

用語セット(用語ストア)は、テナント共通とサイトコレクション別の設定が可能。

1 サイト情報

2 サイト設定

3 サイト設定

4 サイト設定

5 用語ストア

6 カテゴリー

7 カテゴリー

8 カテゴリー



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

● 用語セットの使用例

カテゴリーの大小分類キーワードを、カスタムリストで使用例は、以下の通りです。

The screenshot illustrates the process of editing a list item in SharePoint. The main view shows a list with one item, '投稿サンプル01', under the '用語セット' list. A context menu is open over this item, with the '編集' (Edit) option selected. This opens the '投稿サンプル01' edit form. In the 'カテゴリ' (Category) field, a category selection dialog is displayed, showing a tree structure of categories. The '0101小分類02' category is selected, and the '適用' (Apply) button is highlighted. Blue arrows and numbered circles (1-5) indicate the sequence of actions: 1. Clicking the context menu icon, 2. Selecting '編集', 3. Clicking the category selection icon in the edit form, 4. Clicking '適用' in the category dialog, and 5. Clicking '保存' (Save) in the edit form.



3. ビジネスシーンでありそうな要望 (モダンサイト編)

(11) ドキュメントセット

資料を管理するドキュメントライブラリで**ドキュメントセット**を活用したい

理由：会議などで使用する資料は複数あり、1つの纏まりとして資料共通して準備したい

※ 操作手順は、別紙資料を参照してください



4 .SharePoint Online の検索機能について

(1) 検索機能

近年、「Office365」は「Microsoft365」に命名変更され、そのフレームワーク内の1機能である「SharePoint Online」は、従来の「クラシックUI」に「モダンUI」が追加され、これをデフォルトUIとするサイトも従来の「クラシックサイト」に「モダンサイト」が追加されました。

同時期、「Skype For Business」に代わる「Teams」の追加、「Edge」が「Chrome Edge」に変更され、従来のブラウザのデフォルト推奨であった「IE11」は「Chrome Edge」に代わり、2022年6月には「IE11」は廃止になる模様です。

また、従来の「Microsoft Flow」なども「Power Automate」命名変更され、従来の「InfoPath」の代替えとなる「PowerApps」も追加され「Powerシリーズ」に統一されました。

それに伴い、従来の「SharePoint2010ワークフロー」も廃止されました。

このように「モダン」が追加され、関連機能は大幅に変更されている現在、「検索」機能もクラシックとモダンの両方の検索エクスペリエンス形式となっています。

「SharePoint Online」の検索処理のキーワード入力の検索BOXは、従来、ヘッダー上部右側に配置されていましたが、最上段の中央に変更され、「Edge」や「Chrome Edge」でのサイト閲覧でも順次、表示位置の改修変更が対応されていますが、完全に代わっていないのが現状です。

ヘッダーに配置されていた検索BOXで、キーワードを入力し検索を実行すると、検索センターに遷移され検索結果が表示されますが、その画面レイアウトも従来とは異なっています。

検索結果は、従来と同じ本文やファイル内記述の内容迄検索されていますし、細かな改善はされているようです。



4 .SharePoint Online の検索機能について

(2) 検索機能についての公開情報

Microsoft 365 での SharePoint の概要は以下のMSDNを参照してください。

⇒ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/introduction>

この連携されている「検索」関連は、以下のURLで御確認ください。

- 「SharePoint」の検索エクスペリエンス

⇒ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/get-started-with-modern-search-experience>

- 「SharePoint」の検索の概要

⇒ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/overview-of-search>

- 「SharePoint」検索管理の概要

⇒ <https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/manage-search-the-admin-center>

従来の「クラシックUI」の最終版は、色々な不具合も改善され使える機能になっていましたが、発展途上にある「モダン」関連の「Microsoft Search は SharePointモダンな検索エクスペリエンス」であり、使いこなされていないと推測されいないため、評価結果は公開されていません。

この「モダン」化の改修は現在も進行中であり、稀に今迄動いていた「クラシック」へのデグレも発生しているため、「モダン」化対応が全域に対応され、安定するのは数年は掛かると推測されます。

⇒ 「SharePointを学ぼう_17.MS回答2_サブサイト作成エラーの問合せと回答.pptx」

「SharePoint Online」の状態を監視・確認しながら、「モダン」機能を活用されていく事をお勧めします。



4.SharePoint Online の検索機能について

(3) 検索事例紹介

検索BOXは上段中央のサイト内検索でキーワードに該当する資料を検索し、検索センターでその検索結果が一覧表示されます。但し、クラシック版とは異なり、モダンな検索エクスペリエンスでの表示のため、検索センター画面での絞り込み条件が「ファイルの種類」と「最終更新日」の2つしか無く、再検索のためのキーワード入力フィールドがないなど、機能面で弱いレイアウトになってしまっています。

ユーザー要望として、キーワード「例：“マニュアル”」が文中にある場合や列を追加し事例として、エンタープライズキーワード列(メタで管理された列)を追加した事例をご紹介します。

設定するキーワードは、ユニークな値の設定が必要です。検索仕様は、前頁の掲示したURLから探してください。



5.最近のMicrosoft365で思う事

以前は従来の**クラシックUI**でテーブル各種データを管理して、スプレッド(表)形式でデータを管理したり、表の行データをページ単位で詳細表示して管理していたのが一般的でした。

処理は「SharePoint」のコア部分以外の書式設定と同様に、「**スクリプトWEBパーツ**」で「**CSSとJavaScript**」を追記して要望された機能を実現したり、ページイメージ画面をより業務アプリイメージにしたい場合は「**Infopath**」で画面レイアウトを変え処理を追加する事で実現していました。

また、メール配信や設定内容に基づくアクセス権限の設定、承認ワークフローは「**SharePoint2010ワークフロー**」で対応していました。ただ、この機能の廃止、**Powerシリーズ**の追加、**モダンUI**の追加、「**ACCESS**」アプリの取込の廃止、非推奨の「**.net**」プログラムの**サンドボックス**による取り込みの廃止や「**InfoPath**」も廃止も近々です。

今後は従来の**クラシックUI**と「**PowerAutomate**」(動作不安定)だけで運用するか、「**モダンUI**」(**SharePointFrameWork**を使って**WEBパーツ**を追加)+「**JSON**」+「**PowerApps**」+「**PowerAutomate**」で運用するかの二者選択かと思います。

しかしながら、後者はテーブル一覧画面に**WEBパーツ**を組み込めない、カスタマイズができないという欠点が残ってしまいます。

従って、**テーブル管理を重点に置いた業務**は、標準の**WEBパーツ**が総て使える**クラシックUI**で構築すれば**ユーザー要望を殆ど叶える**事が可能です。

また、**業務アプリ**イメージでフォームを提供したい場合は「**PowerApps**」(**モダンUI**)での対応が自然な流れで制限や非推奨の無い継続的な基盤運用に繋がると推測します。

これはマイクロソフトの期待している制限のあるスクラッチ開発の撲滅提案として、**MIcrosoft365**(Dynamics+SharePoint+Powerシリーズ)の使い方なのかも知れません。

但し、この事は近年、**Microsoft365を導入し運用**を開始したユーザーには伝わっておらず、**クラシックUIは難しそう**なので、マイクロソフト推奨の**モダンUI**だけで総て対応し**PowerApps**での画面編集はやらない(追加費用が必要)、**JSON追加**だけでできない事は機能制限とするという、基盤として継続運用していく事を考慮すると余りお勧めできない方針を打ち出している組織も有ります。

「**Powerシリーズ**」は**ローコード**と言われてますが、実は設定が難解であったりと割と**敷居が高い**ので納得する処もあります。

「**PowerApps**」は「**VB**」で作られた**クラサバシステム**の画面処理と同じ処理を記述するとローコードでは無くなってしまふのかと思います。

自分は20年前より追い先寿命が短い「**Visual Studio**」によるスクラッチ開発からは引退し、Javaや携帯電話用の開発も含め、若い方々にボタンタッチしているのでこんな見解なのかも知れません。

20年前の**VB**系や**.NET**系の保有システムは総て思い出として記念になっていますっ。



Share Point Onlineを学ぼうっ！シリーズの概要

説明で参考になっている書籍は以下の通りです。
Amazon サイトで購入できますので、手に取って、詳細内容の確認にお役立てください。



ブラウザの簡単操作でサイト構築やカスタマイズに興味を抱かれた方、
細かな内容の問合せや作業依頼 などは、以下のメールにご連絡をお待ちしております。
makino@o365ymf.onmicrosoft.com

